

表紙「大宮炭復活にかける思い」

目次・表紙解説「大宮炭の歴史」……………2p	防災、文化センター・人権センターより……………12p～13p
コミュニティ・スクール第3弾……………3p	不定期連載「小銭がたくさん」の巻き……………14p
オッサンショウオが行く特別号…4p～7p	お知らせ・林業アカデミー・鳥獣害対策等…15p～17p
福祉保健課・教育委員会より……………8p～9p	広報文芸・手話教室・人の動き等……………18p～19p
まちの話題……………10p～11p	大好き・我がまちのおすすめスポット等……………20p

今月の表紙「大宮炭復活にかける思い」

大宮はたたら製鉄の地として、製造に必要な炭を作る“炭焼き”が盛んに行われ、「大宮炭」というブランドを有していました。時代の流れと共に燃料が炭から石油とへ変わり大宮炭は一度消滅してしまいます。地元の有志が集まり、「何とか復活させたい」と『大宮炭焼き窯同好会』が結成され、平成27年に窯作りがスタートしました。復活し、地域の方から「煙のにおいが懐かしい」という声があがっています。

炭焼きを牽引している加藤信貴さんは5年前に大宮の景色に一目ぼれし、夫婦で日南町に移住されました。「折角の文化が途絶えてしまうことは悲しい。細々とでもいいので長く続けていくことができれば」と今後の目標を話されました。



今月の表紙は炭窯に火をつけた次の日、火加減を調節している加藤さんを撮影した一枚です。



大宮炭焼き窯同好会 プロフィール（順不同）

古都純孝さん、船越勲さん、佐藤範明さん、徳岡幸人さん、藤原克己さん、田淵茂樹さん、畑誠章さん、上田雅明さん、田辺次良さん、名和川勝さん、古都久志さん、加藤信貴さん、段塚傑さん、佐藤武司さん、西村幸治さん

炭ができるまで



- ①【炭材詰め】窯の中に木を詰めていく。
- ②【乾燥】入り口で火を焚き、徐々に温度を上げながら乾燥させる。
- ③【着火】木が自ら燃え始め、タール等不要な物質が煙と共に抜け始める。
- ④【精煉】煙突の温度を見ながら火を焚くのをやめ、風を送り、炭を硬く締める。
- ⑤【消火】窯が膨らみ、煙の色がなくなってくると、入り口を塞ぎ、消火する。
- ⑥一週間ほど冷まし、完成！

★ポイント

③④の工程で窯の中は見えませんが火加減を間違えると炭が生焼けになってしまいます。目安の温度を基準としますが後は感覚です。現役でされていた方に教えてもらいながら感覚をつかんでいるそうです。

